

川崎市議会2012年第3回定例会



石田和子  
決算審査特別  
委員会で質問

# このまちとともに

## ◆精神障害者の就労支援の充実を

石田和子議員は、9月市議会の決算審査特別委員会で、9月27日、質問にたち、精神障害者の就労支援や子ども支援策など4項目について改善の必要性をただしました。

川崎市は、長年、精神障害者の就労支援に大きな役割を果たしてきた川崎市リハビリテーションセンター内の「社会参加支援センター」を廃止して、3障害者の就労支援を行っている市内3カ所の「地域就労援助センター」に機能を分散する案を示しましたが、関係する方々から存続の要望が寄せられました。市社会参加支援センターの就労支援は精神障害者の特性に併せた働き方をつくり出し、企業に対して精神障害者雇用の理解を広げる活動も行っています。

前年度の就労実績は、3就労援助センター総数の2・6倍です。石田議員は「社会参加支援センター」の継続と就労援助体制の強化について質問。

健康福祉局長は「社会参加支援センターが持つ『ノウハウ』の継続や、地域での支援体制整備について、今後、中部リハセンの整備に合わせて検討する」と答弁しました。

## ◆DV被害者支援の充実を

増加するドメスティックバイオレンス。前年度の相談件数は1275件でした。

川崎市の「DV被害者支援基本計画」では「相談から自立まで被害者の立場に立った切れ目のない支援を行う」としていますが、その中心的役割を担う女性相談員は各区に一人、非常勤職員で9時15分から16時までの勤務です。

石田議員は、相談体制の質的強化が必要ではないかと質したのに対し、子ども本部長は、「保健福祉センターで組織的に対応しているが、今後、相談の増加や複雑化に留意しつつ相談体制の強化について検討する」と答弁しました。

石田議員は、組織的な対応というが、女性相談員の帰庁後、休み、出張等で相談のつてもつえなかつた事例もあるとして、児童・家庭支援、高齢者、障害者、生活保護等と住民の福祉サービス最前線を担っている保健福祉センターの専

## ◆学校トイレ快適化を急いで

市教育委員会は、2008年度から、老朽化のトイレを改修し、洋式化、床のドライ化など、「トイレ快適化事業」に取組んでいます。当初、対象校は134校でしたが、今年度末の時点で67校が未実施となっています。

石田議員は、改修順番の考え方を質すと共に早期実施を求めました。教育長は「早期実現にむけ取り組むと述べながら、トイレの建築年度、施設状況、学校の希望などを勘案しながら選定している」と答えました。

高津区内では、末長小、高津小、南原小、久地小、高津中、東高津中、西高津中が未実施校であり、重ねて早期の実施を要望しました。

## ◆公立保育園の地域の子育て支援に果たす役割の重要性

今議会も他会派から、公営と民営の保育所運営費の差を理由に、「公営をもっと民営化しろ」という主張がだされました。

石田議員は、公・民の運営費の差と要因について質したのに対し、子ども本部長は、入所児童一人当たり月3万円余の差は人件費によるものと答弁しました。

人件費の差は経験年数の差です。保育経験に裏付けられた保育技術、保育知識、保護者や地域の子育て支援に担う役割は大変重要で、専門性が求められる保育所はコストが低ければ低いほど良いという論理はなりたちません。

また、子ども本部長は公営のベテラン保育士の多い利点を生かし、認可外施設に対し、保育士研修会や交流保育をはじめ、出張保育など入所児童のみならず地域の子育てを支援し、保育力の向上に寄与していると答えています。

石田議員が、保育士の増員のない厳しい状況のもとで、現状でもかなりの地域支援を行っていること、今後さらに役割を強化する計画に対し職員配置を増やすべきだと質したのに対し、子ども本部長は、新たな公立保育所の機能を担うための適正な体制の構築について、関係局と協議、検討していきたいと答えました。

最後に、来年度からでも新卒者を採用し、人員増をはかるべきだと意見要望を行いました。

## 山梨県都留市の家中川（かちゅうがわ）小水力市民発電所を視察

10月4日、富士の裾野が尾を引く傾斜地のため、流れが急で水量が豊かな家中川の小水力発電所「元氣くん1号」から「3号」までを視察しました。

都留市では、1口100円の「つるのおんがえし債」という住民参加公募債を発行し「元氣くん」の稼働を支えています。「元氣くん」が発電した電気は、市役所の高圧受電設備に連系し、



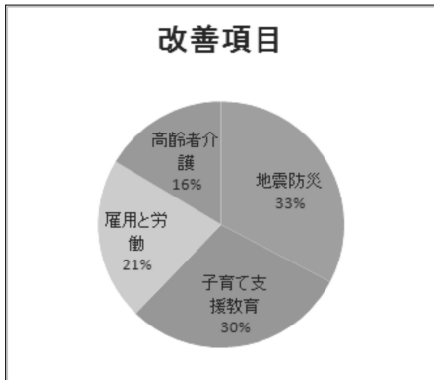
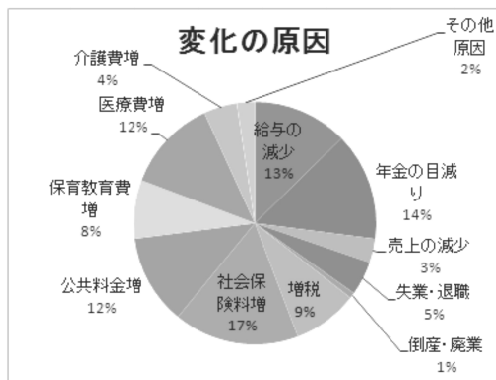
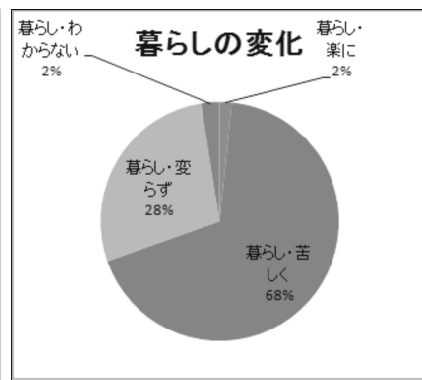
市役所や都留市エコハウス、植物栽培施設への供給電力として、また夜間、土日には東京電力に売電しています。有効落差は最大1m（元氣くん3号）で稼働しており、川崎でも充分可能性があると思われました。（写真）



ご協力ありがとうございます

# 共産党市議団のアンケートに回答4,890通

共産党市議団は、市民の声を市政に反映させるため、8月に「市民アンケート」を配布。10月16日現在、市内全域から4890通の回答が寄せられました。



アンケートの自由記述欄には中学校給食の実現をはじめ、賃金や年金の減少、介護保険料や国保料等による生活不安や生活苦、保育園に入れない、幼稚園保育料の補助や小児医療費助成の拡充要望、厳しい雇用実態等がびっしりと書き込まれています。ご協力に感謝し、ご要望が生きる市政実現にがんばります。

区役所に地域要望の改善策を求めました。

高津区内からも670通の回答が寄せられ、そのうち、地域要望は50件余。交差点や踏切、通学路の交通安全対策、道路補修、カーブミラー設置、公園の安全対策等です。10月16日、あらかじめ担当者が作成した地図と写真付きの要望書に基づいて確認し、午後は実際に12箇所見てまわりました。10月19

日、高津区道路公園センターに、23日高津区危機管理室にそれぞれ要望書を提出し改善策を要望しました。



久地新平瀬橋近くの歩道が狭くベビーカーが通れない箇所

## 日本共産党の代表質問から

### 税金は市民生活最優先に

共産党市議団が行なった代表質問では、2011年度決算の特徴、「神奈川県臨調」が川崎市に与える影響、市の地震防災対策、生ゴミ収集回数を週3回から2回に減らす計画について、中小零細製造業への支援策、後期高齢者医療について、小児医療費助成制度の拡充、保育事業、いじめ問題と教育環境改善、国際戦略総合特区、国際コネクタ戦略港湾計画など、市政全般にわたって、市民の血税が正しく使われてきたのかを検証する質問を行いました。

2011年予算議会の施政方針で市長が、財源不足で小児医療費助成の年齢拡大や幼稚園保育料の保護者負担の軽減をしたかったができて残念と述べていましたが、最終的には、11億円の黒字決算になったことを指摘し、今から補正予算を組んでも抜本的拡充を行うよう求めました。

黒岩知事が「神奈川臨調」で重度障害者医療費給付補助金6・3億円などを凍結し、削減した財源を臨海部の大型事業につきまとうとしていることを厳しく批判。県に中止を申し入れるよう求めました。

阿部市長は「必要な投資は評価すべきだ」などと県の姿勢を肯定。県と同様に、「特区構想」を市民生活の上に置く市政運営は住民の要求に背くものです。

日本共産党は、国際戦略総合特区構想で誘致した企業に特別な優遇策をとる、市の支援策を集中させる産業政策から、中小零細企業を支援し、地域経済の活性化と雇用の安定をはかり、地域循環型の産業政策に転換することを強く求めました。

## 共産党は何故この議案に反対なのか

### ◆川崎市市税条例の一部改正について 復興に名を借りた増税には反対

東日本大震災からの復興に関し、国の「臨時特例に関する法律」の制定で2014年から10年間、個人市民税の均等割税率を一律500円引き上げるとい改正ですが、市の裁量で増税しなくても済むものです。

しかもこの増税分は、被災地支援ではなく、市町村の防災対策に使われるのです。

個人市民税の均等割の引き上げ対象は市内で約73万人、見込まれる増収額は1年で約3億6千万円。県民税分と合わせると年間1000円の増税となり、復興特別所得税の2・1%増税を合わせると、夫婦と子ども2人で年収500万円の家庭では2600円の増税となります。

日本共産党は、自治体の防災対策は急いで取り組むことは市の責務として当然であり、その財源は市の一般財源でまかなうべきと判断し、復興に名を借りた増税議案には反対しました。

### ◆川崎市任期付研究員の採用、給与及び勤務時間の特例に関する条例について

不安定な任期付雇用では息の長い研究活動はできないと反対

川崎市の環境総合研究所（来年、公害研究所など公害3施設を統合）に任期付研究員を採用する議案です。国家公務員の任期付研究員の採用に関する法律に準じて定められ、若手研究者の研究活動の活性化を目的とし、任期は原則3年（特例5年）です。任期切れの時期が近づけば次の研究職を探さなければならず、研究の成果を挙げても正規研究員にはなりません。「短期的雇用は将来に展望が持てないものであり、研究職全体の地盤沈下を引き起こす恐れがある」と日本学術会議が指摘しています。

日本共産党は、このような任期付研究員制度を川崎に持ち込むべきではないと反対を表明しました。

後述（折しも、ノーベル医学生理学賞を受賞された山中伸弥氏が、京都大学iPS細胞研究所では、200人の研究者のうち正規雇用は20人、180人は有期雇用で不安定な身分で研究活動をしている。研究予算を増額していただきたいよりよい研究環境をつくっていききたいと話されていたのが印象的でした。）